

平成 26 年度第 3 回外部評価専門部会 会議録

日 時 平成 26 年 10 月 14 日（火） 14 : 35～15 : 00

場 所 市役所本館議会会議室

議 題 (1)部会選定事業の最終評価について

- ①農畜産物のブランド化
- ②中心市街地活性化事業

出席者 高井伸二部会長、櫻田一雅委員、小林博子委員、山端政博委員
立崎享一委員、江渡恵美委員

事務局 沖澤課長、福島課長補佐、神係長、成田主任主査、鳥谷主任主査

会議内容

(1)部会選定事業の最終評価について

- ①「農畜産物のブランド化」について、下記のとおり最終評価が行われた。

【事前評価まとめ】

事業を行うことについては妥当であり、「生産者や関係機関、学校等との連携が重要」、「労力と事業成果が見合うか」、「公平性の観点から受益の偏りをどう考慮するか」などのご意見が複数あった。前回の会議内容も踏まえて、最終評価をお願いしたい。

【評価結果】

○事務事業の方向性

さらに重点化を図る 3人

有効性を改善して継続 3人

○各委員のコメント（外部評価表より）

- ・十和田市産農畜産物は、たいへん良いものがありますので、これまで以上にブランド化に向けて行ってほしい。ソムリエ協会・北里大学・三農との連携も図っていただきたいと思います。
- ・農業は十和田の基幹産業であることには変わらない。今後の農家の目標、若い人の流入を増やすためにも、取組みを進めるべき。
- ・ブランド化は長期間の継続が必要である。さらに市が他機関、団体等と連携を密にし、市の重点課題として取り組んでいくべきです。
- ・常に新しい事業等を考えながらブランド化を推進していくことが、重要と思います。

- ・生産者、JA等ブランド化推進事業者とのさらなる連携を期待したい。
- ・三農及び北里大学と連携し、有効性を高める。モデルケースに力を注ぎ、効率性はそのぞいででもブランド化推進とすべき。

②「中心市街地活性化事業」について、下記のとおり最終評価が行われた。

【事前評価まとめ】

事業の方向性としてはポジティブなのだが、中の意見としては皆一様に、どうやって有効性を判定していくかが非常に難しい、というもの。居住支援などの取組も広く見れば中心地の活性化につながるだろうが、有効性をどう見るか。効率性についても、事業との費用対効果はどうか。ただ、いずれにしても、市街地の空洞化という問題の解決に向けて頑張ってもらいたいということ。前回の会議内容も踏まえて、最終評価をお願いしたい。

【評価結果】

○事務事業の方向性

さらに重点化を図る 1人

有効性を改善して継続 5人

○各委員のコメント（外部評価表より）

- ・なんとかハード事業を見つけながら、中心市街地の活性化に向けた取組みをお願いしたいと思います。関係機関との連携も大いにしていきたいと思います。
- ・常に前進あるのみの事業であり、有効性を点検評価し、継続する。
- ・近隣市町村へイベントをPRし、十和田市を知っていただき、情報発信をしてもらう。
- ・中心商店街への効果を目標に、居住人口増加策を考えてほしい。
- ・行事のみでなく、日常生活に密着しての市街地の活用法を見出し、活性化につなげてほしい。

その他 外部評価終了後の流れ（市長への報告書提出・評価結果の公表など）について事務局が説明した。